

經濟論叢 每月一日發行
 第四十七卷第二號 昭和十三年八月一日發行
 大正四年六月二十一日第三種郵便物認可

會學濟經學大國帝都京

叢論經濟

號二第 卷七十四第

行發日一月八年三十和昭

論叢

貨幣は被覆なりや……………

文學博士 高田保馬

日本國民經濟の根本性格……………

經濟學博士 石川興二

統計機關論……………

經濟學博士 蜷川虎三

時論

連繫貿易制(Link-system)に就いて……………

經濟學博士 谷口吉彥

研究

純粹理論經濟學と日本國民主義……………

經濟學士 柴田敬

理論經濟學との間の距離……………

經濟學士 德永清行

支那經濟に於ける銀の地位……………

經濟學士 青山秀夫

ワルラスに於ける動學化の問題……………

經濟學士 住谷勇二

近世絞油業の生産機構……………

經濟學士 住谷勇二

說苑

資本及び資本形成理論の二元性……………

經濟學士 中谷實

ドマンデヨン、村落と田舎共同體……………

經濟學士 宮本又次

附錄

彙報

外國雜誌論題

(禁轉載)

彙報

經濟學部

○本學歐文紀要 Kyoto University Economic Review 第十三卷
第一號は七月二十日に刊行されたが、その内容は次の如くである。

Economic Ideas in Tokugawa Days Professor E. Hoernje

On the Relation of Trade to Production and Consumption

Professor K. Taniguchi

The System of Grants-in-aid for the Adjustment of Local

Finance Professor S. Shiomi

Notes

同誌は海外學界各方面に頒布されるが、内地希望者に對しては、丸善から取次ぐことになつてゐる(定價金一圓)。第二號は十月中旬刊行の豫定で、既に四篇の原稿が準備されてゐる。

經濟學會

○六月例會 六月十二日(日)午後六時より樂友會館に於て柴田助教授歸朝並びに大學院新入學生の歡迎會を開催、先づ階下食堂に於て歡迎晚餐會が催されたが、その席上高田部長の歡迎の辭があり、それに對して兩氏よりそれ／＼謝辭が述べられた。次いで階上講演室に於て報告會に移り、柴田助教授より「歐米

經濟學界の近情について」と題して、アメリカ、イギリス、ドイツ、スウェーデン等に於ける經濟學界の現況、特に歐米青年學徒の眞摯な活躍について興味深い歸朝談を聞き、參會者一同多大の感銘を受けて九時半盛會裡に散會した。當日の出席者——高田本庄、小島、作田、汐見、石川、谷口、八木、蟻川、中川、大塚、柴田、堀江、中谷、佐波、白杉、島、松井、山岡、飯田の諸先生。青山、田杉、出口、岡倉、熊本、岡本、井上(巖)、井上(次)、石川、上村、青盛、菊田、西藤、三谷、鈴木、北野、植木、山崎、大田、前川、岡崎、大谷、堀江、宮本、佳谷の諸氏。

○會員動靜

- 赤見昌平 兵庫縣武庫郡鳴尾村燒屋敷一—一 (阪神甲子園下車東二丁)
- 石塚三郎 東京市牛込區富久町一九
- 生田益太郎 奈良市上三條町日本勸業銀行奈良支店
- 江崎廣次 福岡市上花園町一五九二 神谷方
- 大畑文七 東京市世田ヶ谷區世田ヶ谷二丁目一四四六
- 大類一雄 神奈川縣鎌倉町亂橋材木座一
- 片山捉作 長崎市下西山町五三
- 川田潤 奉天市大和町高千穂通八ノ七
- 北尾松茂 別府市海門寺區公園前七八三(電一三八五)
- 國枝甚吉 金澤市南町四四
- 小柳平次郎 大阪府豐能郡南豐島村原田一一二四 武岡重雄方